

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4171600184		
法人名	医療法人 竜門堂		
事業所名	竜門堂 グループホーム ことぶき荘		
所在地	佐賀県武雄市山内町大字大野6360番地6		
自己評価作成日	平成26年2月5日	評価結果市町村受理日	平成26年5月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.espa-shiencenter.org/preflist.html
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 佐賀県社会福祉士会
所在地	佐賀県佐賀市八戸溝一丁目15番3号
訪問調査日	平成26年2月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

結婚式場を改築して、大広間で畳の生活がゆったり落ち着く空間づくりとなっている。いつでも気軽に訪問できるような雰囲気づくりを心掛けている。一人ひとりの持たれている能力を少しでも活かしながら、穏やかな荘生活を過ごして頂けるように支援していきたいと思ひます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、市のほぼ中央の山あい位置した静かな場所にある。母体病院がすぐそばにあり、緊急時の医療連携もスムーズである。建物は結婚式場をリフォームしたもので、広い共有空間があり、ゆったりと落ち着ける雰囲気がある。開所し約10年が経過しているが、掃除も行き届いており、清潔感が感じられる。職員は、声掛けなどにも配慮し、暖かく穏やかな雰囲気ホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念を掲げ、毎朝の申し送り時に職員で唱和している。荘内に掲示して理念の実施に取り組んでいる。	法人の理念とホームのモットーを掲げている。目に入り易い様に、事務室や厨房等にも掲げ、毎朝唱和している。職員は理念を共有しながら、日々の実践を行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所を散歩したり、行事などに参加して頂き地域の方との交流を深めている。	入居者と散歩に出掛け際に挨拶を交わす等、地域との交流が図られている。近所の方も法人内の催し物にも来られ、交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティアの方が訪問されたり、行事や運営推進会議などで、認知症の方が生活されている事を伝えたり、行事などの関わりで認知症の理解を深めて頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行政・地域・ご家族に参加して頂き、入居者様の体調の報告や状況に応じたサービスの取り組み等を報告し、参加者の方から質問や意見を頂き、サービスの向上に努めている。	地域の各関係者に参加して頂き、2ヶ月に1回開催している。また、地域の方の話し合いの場にもなっており、話しやすい雰囲気の会議となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加して頂いたり、また、保護係の方は定期的に訪問されたり、サービスに対して担当者に相談や連絡など電話で行っている。	生活保護課の担当者や福祉課等の関わりもあり連携がとれている。家族からの相談があっても、市町と連携し、迅速に対応できている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に対してはミーティングや勉強会などを通して職員に周知理解している。玄関は施錠しないで見守りを行う取り組みをしている。	身体拘束をしないケアの勉強会の開催や、外部の研修にも参加し、意識を高めている。外へ行かれたい方へも、職員が付き添いや見守りをし、施錠をしないように取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止は法人全体で研修に参加して全職員に周知している。ミーティングでも報告話し合い、虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の関する制度に対して理解している職員は少ないと思います。研修などで学ぶ機会があれば参加したいと思います。今回、成年後見制度をご家族の方が利用されました。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては契約書を元に、入居時説明して理解・納得して署名・捺印を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様やご家族の要望や意見はその都度聞き入れて、出来ることは反映させている。敬老会の時に家族会を開催して意見・思いを話されている。	家族会等を開催し、意見を聞ける機会を設けている。意見が出された時には、些細な事でも対応し、運営への反映にも努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営に関することはその都度職員の意見を聞き、また月1回のミーティング時に全員で話し合い、法人に相談できる事はお願いをして運営に反映させている。	定期的に月末に職員会議を実施されている。入居者の今後の方向性を協議したり、感染症や安全対策、介護教育など各委員会からの意見等もあり、反映できる体制が整えられている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日々の勤務態度や研修参加レポート提出や資格習得を推進して各自の向上心を高めることにより、昇給や賞与に繋がっていると思う。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人で教育委員会があり、勉強会や法人内外の研修参加を受ける機会をもうけている。研修費や交通費の支給制度があり、資格習得により個人の質の向上を指導されている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のグループホーム協会に入っているが同業者との交流する機会が不十分であり、今後は出来るだけ参加して交流の機会を持ちたいと思います。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居される前にご本人とご家族に見学して頂き不安なことや要望をお聴きしている。入居時は皆様不安がられる為、安心されるような関係づくりに努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居される時にご家族様から不安なことや、要望をお聴きしている。入居されてからは状況報告を行って関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用される前にケアマネジャーに相談され、必要とする支援を見極められている。また事前に情報交換をしている時もある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩でもあり、昔の事など尋ねて参考にしている。入居者様も徐々に身体的に低下がみられ出来る事が減少されているが、出来る事を一緒に行うように心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族には自由に面会して頂き、日常の状況をお伝えしたり、一時でも一緒に過ごされ、生活ぶりを見て頂いて。外出・外泊はご家族の協力を得て絆を大切にされている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方が気軽に面会できるような雰囲気づくりに心掛け、ゆっくり過ごして頂いている。また、いつでも気軽に出かけられるよう支援に努めている。	家族や友人、近所の方が訪問された際には、いつでも来てもらえるよう雰囲気作りに努め、こちらから馴染みの場所へも出向いている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気が合う方や時には気が合わないでトラブルを起こされる為に入居者様の関係を把握して、その時の状況により関わりが上手くいくよう配慮支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居されてからも、法人の病院に入院されている時は面会したり、ご家族と会った時は経過などの話をして相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。現在の自分の能力を理解されていない方もあり、思いを受け入れることが困難であるが、ご家族と相談しながら支援できればと思っています。	職員それぞれが、普段の生活の様子をよく観察し、入居者一人ひとりの思いや意向の把握を行っている。家族とも相談し、入居者に意向が反映できるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居される時はご本人やご家族、または他の施設やケアマネジャーからの情報や生活歴、暮らし方、生活環境など尋ねて把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの心身の状態を把握して、有する力量に合わせて、出来られる事をして頂き、出来られない部分を手助けしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画を作成する前に、ご本人・ご家族に意向をお尋ねし、サービス担当者会議で主治医の意見や職員の意見を出し合い、介護計画を作成し、実施経過をモニタリングにつながり、次回の作成に活かされている。	本人や家族、主治医から意見を聞き、職員も意見を出し合い、介護計画を作成している。モニタリング、評価を行い、現状に即した介護計画を作成し、実施している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の様子、気づき、ケアの実施を介護日誌に記録している。職員間の情報を共有しながら、状況に応じた見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様の身体・精神的変化により、その状況に応じた対応をしている。また、ご家族にはその時の状態など訪問時にお伝えしたり、電話で報告したり、柔軟な対応に心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事に参加したり、散歩に出かけたり、車で花見や紅葉狩りに出かけ、自宅付近を通ると状況を思い出して話される。花見の時は気候も少し暖かくなり皆様喜ばれています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は法人の医者であり、定期的また異常時はすぐに連絡して対応される。歯科は訪問診療を受けている。主治医の紹介や家族の希望により、他の医療機関へ受診されるように支援している。	かかりつけ医は家族、本人の希望としているが、現在、主なかかりつけ医は協力医療機関となっている。協力医療機関とは、24時間対応が可能であり、ホームの看護師と円滑な連携がとれている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は日頃の状態や気づきを看護師に報告し、その状況により主治医に上申して、個々の入居者様が適切な診療や看護を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された時は情報交換して、お見舞い時に状態を尋ねたりしている。他の医療機関に入院された時の退院時は法人の受付と情報交換や相談に努めている。法人の病院に入院された時は頻回に面会して状態を尋ねたり退院に向けての相談など行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方については、入居時に御家族に説明している。状態が悪化された時は主治医と御家族と施設長が話し合いを行っている。	入所時に、ホームの方針を説明している。状態が悪くなったり、重度化された場合はその都度、主治医、家族と話し合いをもち、方針を共有している。また、状態が悪化されても、病院対応がすばやくできており、家族の安心に繋がっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者様の急変時や事故発生時の対応マニュアル作成し、看護師による急変時の勉強会を行っている。急変時は看護師・主治医に連絡して指示を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難誘導の訓練を行い職員が出来るようにしている。訓練時消防署からの指導・地域消防団からの指導・アドバイスを頂きながら地域の方の協力をお願いしている。	年2回、火災避難訓練を実施している。夜間を想定した訓練も実施されている。地域の消防団や近所との連携も図られている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりを尊重した言葉かけや対応に 常々気をつけるようにしている。その時の状 況で声かけの仕方など職員に指導を行って いる。	排泄時の言葉掛けや、周囲への配慮等に気 を配っている。尊厳やプライバシーに配慮出 来る様常に意識し、職員間で気づきあえる取 り組みを行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自 己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望は自由に伝えられるが、 それを受け入れられないご家族の思いがな どある。荘側としては出来る限りの支援をい たいと思っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切に、その日をどのよう に過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側のある程度の決まり事はあるが、一 人ひとりペースや意志を尊重し、その時の 状況に合わせた対応をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう に支援している	入浴日などご本人の好まれる洋服を選んで 頂いたり、起床時好みの衣装に着替えられ たりされる。衣類の調整が上手く出来られ ない方は支援している。マニキュアなど塗ると 好みの色を選ばれ喜ばれる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好み や力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備 や食事、片付けをしている	食事は入居者様が一番楽しみにされている 時間でもあり、希望の食事を尋ねている。配 膳の準備や下ごしらえ、つぎわけ等出来ら れることを一緒に行っている。手作りのおや つ等は喜ばれる。	献立は食事担当者が考えて作成し、食事を 提供している。栄養バランスも見た目も良く、 残菜も殆どない。入居者のできることに合わ せ、食事の支度など一緒に行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて 確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に 応じた支援をしている	魚・肉・野菜などバランスを考え、一人ひとり の状態に応じた食事形態・食事を提供して いる。食事摂取量は記録して、水分摂取量 も一人ひとり把握して飲水をすすめている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一 人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケ アをしている	毎食後口腔ケアの声かけして、歯磨きをさ れている。義歯洗浄が出来られる方はして 頂き、出来られない方は介助で洗浄を行っ ている。義歯は夜間は洗浄剤を使用して預 かっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	昼間は全員の方がトイレを使用され、一人ひとりの排泄パターンを把握して声かけ、誘導を行っている。夜間はポータブルトイレを使用される方やオムツを着用される方の支援を行っている。	誘導時には小声で実施する等、羞恥心などへの配慮を行っている。昼間はトイレ誘導し、夜間は状態に応じポータブルトイレに誘導するなど、出来るだけ排泄の自立ができるよう取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因や影響を理解している。飲食物の工夫は行っているが、運動の促しが不足しているようである。便秘状況を主治医に相談して下剤・座薬で対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は決めてあり、その日の体調や希望で入浴されている。個々の状態を理解されていない方は長湯されないように配慮したり、入浴拒否される方は清潔することの必要性を説明し、入浴して頂くよう支援している。	入浴日は決めてはいるが、入居者のその日の体調や状況に配慮した、入浴日や時間の変更は可能である。また、清潔の保持にも配慮し、入浴支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりのその時の状況に応じて休息されている。個人の睡眠のあり方・場所・時間により支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方されている薬の用法や用量など介護記録に綴り理解している。副作用などで注意することや臨時薬は申し送りノートに記録して職員に周知できるようにしている。確実の与薬と二重の確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を尋ねて手先の器用な方など作業や作品作り、好みのレクリエーション等一緒に行い、気分転換できられるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候のいい日は散歩の声かけを行っているが、数人の方のみ希望される。行事で花見や紅葉狩りなど出かけている。ご家族の希望で外出・外泊は自由にできるような支援している。	花見ともみじ狩りが一大イベントで入居者は楽しみにしている。また、近くのお店で会席料理を楽しむこともある。日頃は、周辺の散歩や外気浴を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持たれていても、色々な場所に仕舞い込まれる為、小銭だけ持たれている。ほとんどの方が事務所預かりにされていて、希望の買い物(お菓子)など一緒に出かけている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	帰宅願望があられる方が電話希望される時があり、ご家族と話されている。はがきなどご姉妹から受け取ったり、以前から入会されていた会のおたよりなど読まれている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	結婚式場を改築しており、大広間で一人ひとりの居場所を確保され、テレビをみたり、窓際から外を眺められたり、台所も食事作りの音やにおいも感じられる居場所となっている。季節を感じて頂けるよう飾り付けや玄関の花など観賞して頂くように心掛けている。	広いリビングで畳の間が広くとられており、ゆったりと落ち着いた雰囲気がある。加湿器や空調で心地よく過ごせる環境が整えられ、四季を感じれるように花や季節の飾り付けが行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	現在は一人ひとりの居場所が確保されている為個別の空間作りはしていないが、ご家族と一緒に過ごして頂くようにはしている。また、身体の状態や空調の関係により、入居者様が見渡せるように工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はご自分が使用されていた家具・鏡台等を持ち込まれている。お泊まりの希望があれば出来るが現在のところお泊まりの希望はない。	居室の調度品には筆筒、仏壇、鏡台等、個人個人の馴染みの物がおかれており、心地良く過ごす事が出来る環境が整えられている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の入り口には名前を掲示して、トイレもわかるように表示しているが、除々に低下されている為に、夜間の階段のつまずき等に対する対策が必要と思われる。		